

2022年7月7日

## 2022年夏休み(7月15日～8月31日)の旅行動向

- ・国内旅行者数は7,000万人、対前年175%(対2019年96.7%)
- ・近場旅行が減少、日数を増やし遠方への旅行が増加
- ・大都市圏への旅行が回復傾向
- ・同行者が近い家族中心から友人・知人などに拡大傾向に

JTBは、「夏休み(7月15日～8月31日)に、1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向見通しをまとめました。本レポートは、旅行動向アンケート、経済指標、業界動向や航空会社の予約状況、JTBグループの予約状況などから推計したもので、1969年から発表し、今年で53回目となります。調査結果は以下のとおりです。

(図表1)夏休み旅行動向推計数値 (※但し、6月末時点から感染状況の大きな変化がないことを前提としています)

	2022年夏休み			2021年 実績推計	2021年 2019年比	2019年 実績推計
	2022年推計値	2021年比	2019年比			
総旅行人数(延べ)	7,050万人	175.9%	93.6%	4,009万人	53.2%	7,534万人
国内旅行人数	7,000万人	175.0%	96.7%	4,000万人	55.2%	7,240万人
海外旅行人数	50万人	555.6%	17.0%	9万人	3.1%	294万人
国内旅行平均費用	35,500円	107.6%	97.3%	33,000円	90.4%	36,500円
海外旅行平均費用	-	-	-	-	-	232,000円
総旅行消費額						33,386億円
国内旅行消費額	24,850億円	188.3%	94.0%	13,200億円	50.0%	26,426億円
海外旅行消費額	-	-	-	-	-	6,960億円

\*旅行人数は延べ人数、平均費用は一人1回あたりの費用 \*対前年比は小数点第2位以下を四捨五入

\*国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る)、海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む)

\*国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む \*海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ・旅行先での交通費・宿泊費・食費を含む

### 【旅行動向アンケート 調査方法】

調査実施期間：2022年6月22日～24日

調査対象：全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数：事前調査10,000名 本調査1,030名

(本調査対象者は、事前調査で「夏休みに旅行に行く／たぶん行く」と回答した人から抽出)

調査内容：2022年7月15日～8月31日に実施する1泊以上の旅行(商用、業務等の出張旅行は除く)

調査方法：インターネットアンケート調査

調査機関：株式会社JTB 総合研究所(調査委託先：株式会社マクロミル)

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

JTB 広報室 03-5796-5833(東京) 06-6260-5108(大阪)

## <社会経済環境と生活者の動き>

### 1. 新型コロナウイルス感染症と旅行・観光の動き

新型コロナの世界的流行が3年目に入り、世界の国と地域では正常化に向けた動きが活発化し、国際旅客の受け入れを再開する動きが顕著です。コロナ禍前と同じ条件で出入国できる国も増え、特に欧米を中心に入国制限の緩和が進み、航空需要の回復が想定より早く進んでいます。

日本国内の新型コロナに伴う移動制限は、今年3月21日に「まん延防止等重点措置」が全面解除され現在に至ります。春の大型連休は3年ぶりに国内の移動自粛の要請がなく、水際対策の緩和により日本人の海外パッケージツアーが一部再開されました。6月1日から入国者数の上限が2万人に引き上げられ、一部の国や地域からの入国者には入国時の検査などが免除となりました。同月10日から外国人観光客の受け入れが添乗員付きパッケージツアーに限り開始されました。国内旅行については、県民割(一部は県単位からブロック単位に拡大)、そして今後全国を対象とした観光需要喚起策(全国旅行支援)の実施が予定されています。

### 2. 旅行やレジャー消費をとりまく経済環境と生活者意識

世界経済については、国際通貨基金(IMF)は世界経済見通し(2022年4月発表)で、2022年の世界成長率(予測値)を3.6%と発表しました。これは1月発表の4.4%から0.8ポイントの減少で、日本も0.9ポイント減少の2.4%と下方修正され、不安定な国際情勢中、先行きは厳しい状況であることが予想されます。

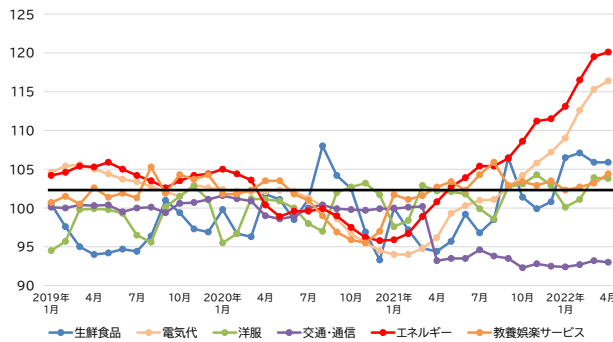
日本国内では、2021年以降円安ドル高が進み、輸入原価が上昇し、物価上昇が家計に影響を与え始めています。6月29日の外国為替市場では、24年ぶりに一時1ドル137円台をつけました。内閣府の2022年6月の月例経済報告では、個人消費は「持ち直しの動きがみられる」となっている一方で、消費者物価は「このところ上昇」と指摘しており、先行きについても「当面上昇することが見込まれる」としています。消費者物価指数を見ると、2008年8月以来の高値になっているガソリン価格や電気代をはじめとするエネルギー関連価格の上昇が著しく、今後の旅行やレジャーへの支出に影響を及ぼすことが懸念されます(図表2)。

生活意識に関しては、日本銀行が定点で調査している「生活意識に関するアンケート調査」の暮らし向きの実感の推移をみると、2021年9月まで「ゆとりがなくなってきた」の割合は減少傾向を示していたものの、2021年12月以降は増加に転じ、2022年3月は41.7%と2020年9月以降で最も高くなりました(図表3)。一方で、経団連は大手企業の2022年夏季賞与について、前年より13.8%増加したと発表しました。

当社が実施したアンケート調査で、生活について当てはまる状況を聞いたところ、「昨年より収入が減った(15.8%)」は前年調査より4.1ポイント減少した一方で、「家計に余裕はない(24.0%)」は前年調査から10.2ポイント増加しました。消費については、「特に生活費を節約していない(6.4%)」が前年から7.6ポイントと大きく減少しましたが、「普段の生活を切り詰め、欲しいものはこれまで通りに購入したい(8.3%)」が0.4ポイント増加、「先行きがわからないので、今のうちに大きな支出を考えたい(4.5%)」が2.9ポイント増加と、前年より消費に積極的な人の割合も増える結果となりました(図表4)。

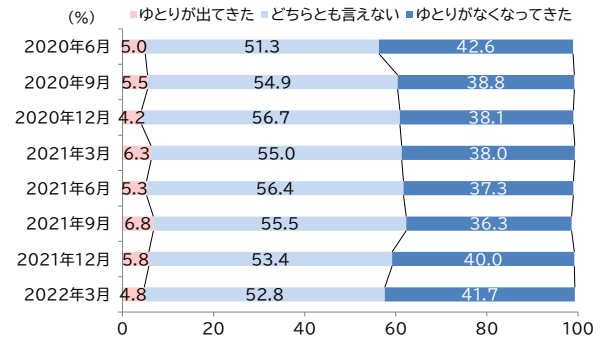
「今後1年間の旅行支出に対する意向」については、「旅行支出を増やしたい(14.6%)」は0.7ポイント減少となっているものの、「旅行支出を減らしたい(39.7%)」は5.5ポイントの減少となり、旅行支出についての意向が前年より高い結果となりました(図表5)。今後の生活への不安が大きい一方で、足元の消費は、長引くコロナ禍による我慢もあり、先行きが見通せないからこそ今のうちに消費したい気持ちや、節約しながらメリハリのきいた消費で生活を充実させたい気持ちが調査からうかがえます。

(図表 2)消費者物価指数の推移



出典:総務省「消費者物価指数(2020年基準)」データをもとに JTB 総合研究所作成

(図表 3)現在の暮らし向き



出典:日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」データをもとに JTB 総合研究所作成

(図表 4)今の自身の生活について

(複数回答 N=10,000)

<収入・家計について>	%	前年比
昨年より収入が増えた	5.3	+0.6
昨年より収入が減った	15.8	▲4.1
今年の夏はボーナスが増えた	2.8	▲0.3
今年の夏はボーナスが減った	12.7	+3.5
家計に余裕がある	4.2	+2.3
家計に余裕はない	24.0	+10.2
<生活・消費について>		
いつもより生活費を節約してる	15.5	▲3.4
特に生活費を節約していない	6.4	▲7.6
普段の生活を切り詰め、欲しいものはこれまで通りに購入したい	8.3	+0.4
欲しいものや趣味・娯楽のために使うお金を控えるようにしたい	7.7	▲1.9
先行きがわからないので、今のうちに大きな支出を考えたい	4.5	+2.9
先行きがわからないので、大きな支出は控えておきたい	18.0	▲1.4

(図表 5)今後1年間の旅行の支出に対する意向

(単一回答 N=10,000)

	%	前年比
支出を増やしたい	14.6	▲0.7
同程度(合算)	45.7	+6.2
単価を減らし回数を増やす	8.9	+3.9
単価を増やし回数を減らす	9.1	+0.3
単価も回数も同程度	27.7	+2.0
支出を減らしたい	39.7	▲5.5

\*前年比は2021年夏休み調査にて「コロナ禍(2020年~現在)と比べて」の意向結果と比較しています

## <夏休みの旅行動向予測>

### 3.夏休みの旅行を取り巻く環境とアンケートから見える旅行意向

今年の夏のカレンダー  
(7月15日~8月31日)※赤字は国民の休日

7月

日	月	火	水	木	金	土
					15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

8月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

今年の夏のカレンダーは、7月16日(土)~7月18日(月)が3連休で、また8月12日(金)を休みにする、8月11日(木)~8月14日(日)が4連休となります。

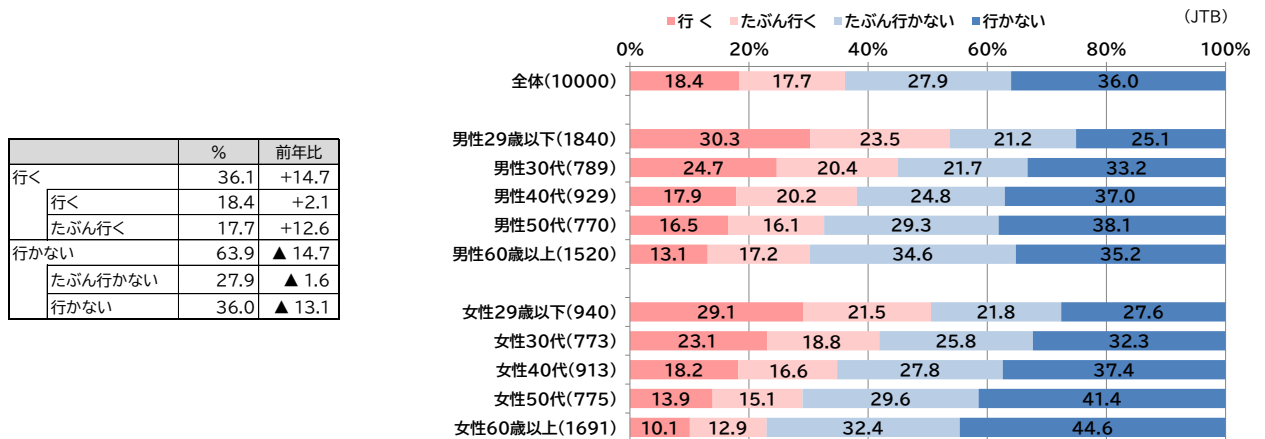
今年の夏休みに旅行に行くかどうかについては、前述のアンケートによると、「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」と回答した人は調査時点で36.1%と前年から14.7ポイント増加しました(図表6)。2019年に実施した同調査では38.0%でしたので、意向はコロナ禍前に近づいているといえます。性年代別でみると、男女とも若い年代ほど旅行意向が高くなる傾向がみられます。「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」が男性29歳以下は53.8%、女性29歳以下は50.6%と過半数を超えています。男性60歳以上は30.3%(前年14.2%)、女性60歳以上は23.0%(同10.8%)でしたが、コロナ禍では旅行に慎重な姿勢を見せていたシニア層の意向も昨年比べて高くなっていることが分かります(図表7)。

この夏の旅行は、一言でいうと、日数を増やし、遠方に旅行する傾向が昨年より強まるといえます。「旅行日

数を増やす(14.8%)」は対前年 11.0 ポイント増加、「昨年の夏より遠方に旅行したい(14.0%)」が 7.4 ポイント増加しました。観光キャンペーンについては、「観光キャンペーンが利用できるなら、旅行したい」が 13.8%、「観光キャンペーンの実施に関係なく、旅行したい」は 9.0%となりました(図表 8)。

旅行に行かない人に理由を聞いたところ、最も多かったのが「夏休み期間は混雑するから(29.3%)」、次が「家でのんびりしたいので(25.0%)」となりました。また「新型コロナウイルス感染症がまだ収束していないから/拡大の懸念があるから(24.8%)」は、前年から 39.7 ポイント減と大きく減少しました(図表 9)。

(図表 6、7)夏休み(2022年7月15日～8月31日)の旅行意向(単一回答・性年代別 N=10,000)



(図表 8)夏休みの旅行について  
(複数回答、N=10,000)

	%	前年比
昨年の夏より旅行日数を増やす	14.8	+11.0
昨年の夏より旅行日数を減らす	7.3	+3.9
昨年の夏より遠方へ旅行したい	14.0	+7.4
昨年の夏より近場の旅行に行きたい	7.0	+1.4
昨年よりお金をかけて豪華に過ごす予定	5.4	-
昨年よりお金をかけず質素に過ごす予定	14.4	-
昨年同時期に比べて、お出かけや外出することを減らす	6.4	▲19.3
昨年同時期に比べて、お出かけや外出することを増やす	13.2	+8.9
ガソリン代が高いので車の利用は控えたい	10.9	-
ガソリン代に関係なく、車を利用したい	13.1	-
観光キャンペーンが利用できるなら、旅行したい*	13.8	-
観光キャンペーンの実施に関係なく、旅行したい*	9.0	-
観光キャンペーンが利用できないなら、旅行しない*	2.9	-

\*観光キャンペーン：国や自治体の需要喚起策

(図表 9)今回の夏休み旅行に行かない理由  
(複数回答、N=6,389)

	%	前年比
夏休み期間は混雑するから	29.3	-
家でのんびりしたいので	25.0	+10.6
新型コロナウイルス感染症がまだ収束していないから/拡大の懸念があるから*	24.8	▲39.7
家計に余裕がないので	24.3	-
なんとなく行く気にならないから	15.7	+2.5
夏休み期間は旅行費用が高いから	15.0	+7.7
特に旅行したい場所がないから	12.6	+4.7
仕事などで休暇が取れないから	12.5	+1.7
家を離れられない事情があるから	9.8	+5.1
他の時期に旅行に出かけるから	8.9	+5.4

\*2021年同調査において「新型コロナに対する不安」を理由にした選択肢を合算して比較

#### 4. 今年の夏休みの国内旅行者の予測

国内旅行人数は 7,000 万人(対前年 175%、対 2019 年 96.7%)

国内旅行平均費用は 35,500 円(対前年 107.6%、対 2019 年 97.3%)

夏休み期間(2022年7月15日～8月31日)の国内の旅行動向については、各種経済指標、交通機関各社の動き、宿泊施設の予約状況、各種定点意識調査などをもとに算出し、国内旅行人数は 7,000 万人(対前年 175%、対 2019 年 96.7%)と推計します。また、国内旅行平均費用は 35,500 円(対前年 107.6%、対 2019 年 97.3%)、総額 2 兆 4,850 億円と推計します。

具体的な傾向については、次章以降で述べる通りです。

## 5. 今年の夏の旅は、旅先の拡大、都市部の復活、公共交通の利用、同行者も拡大の傾向に

アンケート調査から今年の旅行の傾向は、緊急事態宣言などが発出されていた昨年の夏休みと比べ、遠方へ長期間、同行者は近い家族から友人・知人に拡大、行先はテーマパークやレジャー施設などが増加する傾向がみられます。また鉄道・航空機・バスなどの他人と同乗する公共交通機関の利用も増加しています。以上の流れを受け、費用も増加しています。具体的な調査結果は以下のとおりです。

**旅行に行く目的や動機:**「家族と過ごす(12.3%)」が最も多くなりました。次いで「温泉でゆっくりする(9.8%)」「帰省(9.7%)」となりましたが、いずれも昨年より減少しています。またコロナ禍で需要が増えていた「自然や風景を楽しむ(7.8%)」「ハイキング、登山、キャンプなど(3.6%)」「海辺で保養、海水浴、水遊び(2.2%)」も昨年より減少しました。一方で「イベント・祭り・観劇・スポーツ観戦など(5.4%)」「テーマパークやレジャー施設(4.7%)」は増加しており、昨年中止や入場規制を行っていたイベントや施設への訪問意向が見られます(図表 10)。

**旅行日数:**「1泊(35.7%)」が最も多くなりましたが、前年から 6.2 ポイント減少しています。一方で「2泊(33.1%)」「3泊(18.3%)」はそれぞれ増加し、旅行日数は長くなる結果となりました(図表 11)。

**同行者:**「夫婦のみ(24.5%)」が最も多く、次いで「子供づれ(中学生までの子供がいる)の家族旅行(20.9%)」となりましたが、いずれも前年に比べ減少しました。コロナ禍では増加傾向にあった「ひとり(18.0%)」も減少しました。一方、「三世代の家族旅行(6.6%)」「(母娘など)それ以外の家族旅行(8.8%)」、「家族と友人・知人(5.3%)」「友人・知人・パートナー(14.1%)」はいずれも増加しました。これまでの少人数の家族やひとりが中心だった旅行から、同行者の対象が拡大する傾向がみられます(図表 12)。

**旅行先:**「関東(17.4%)」が最も多く、次いで「近畿(13.0%)」「東海(10.4%)」「九州(10.3%)」「北海道(10.1%)」となりました(図表 13)。その旅先を選んだ理由として、「行きたい場所があるので(29.1%)」が最も多く、次いで「帰省先なので(16.2%)」「自家用車やレンタカーで行ける場所なので(11.9%)」「友人・知人など会いたい人が住んでいるので(8.9%)」となりました(図表 14)。

居住地別に旅行先を見ると、旅行先と居住地が同じ地方である域内旅行の割合は、すべての地域で前年より減少となりました。首都圏を含む関東居住者は域内の旅行が前年より 6.2 ポイント減少した一方で、特に北海道、九州・沖縄への旅行が増加しました。近畿居住者も域内の旅行が 6.4 ポイント減少し、北海道、関東、九州・沖縄が増加しました。地方部から関東、近畿のような大都市を含む地域への旅行も増加しました(図表 15、16)。

**一人当たりの旅行費用:**「1万円～2万円未満(20.6%)」が最も多く、次いで「2万円～3万円未満(18.3%)」となったものの、いずれも前年より減少しました。一方、「3万円～4万円(9.2%)」「4万円～5万円未満(17.4%)」はそれぞれ増加し、3万円以上はすべての項目で前年より増加しました(図表 17)。

**利用交通機関:**「自家用車・レンタカー(61.9%)」が最も多かったものの、前年より 8.1 ポイント減少しました。一方「鉄道全体(43.5%)」「航空機全体(23.3%)」は増加しました。昨年は感染対策として他人との接触を避けるため、自家用車の利用による近距離旅行の傾向が顕著でしたが、「鉄道」や「航空機」など公共交通機関を利用し、遠方へ、日数をかけて行く意向がみられます(図表 18)。

**利用宿泊施設:**「ホテル(63.2%)」が最も多く、前年より 20.1 ポイント増加しました。都市部への旅行の回復がうかがえます。次に「旅館(24.3%)」、「実家や親族の家(18.9%)」となったものの、いずれも減少しました。これまでは、感染対策を兼ね、「キャンプ場・グランピング・キャンピングカー・車中泊など、アウトドアに関する宿泊(5.1%)」や「民泊・貸別荘(2.2%)」が増加しましたが、今夏はいずれも減少しました(図表 19)。

(図表 10)旅行目的や動機

(単一回答、N=1,030)

	%	前年比
家族と過ごす*	12.3	+4.0
温泉でゆっくりする	9.8	▲7.6
帰省	9.7	▲11.8
リラックスする、のんびりする	8.6	-
自然や風景を楽しむ	7.8	▲2.9
食事、地域の味覚を味わう	6.5	▲3.3
知人・友人・パートナーと過ごす	5.7	-
イベント・祭り・観劇・スポーツ観戦など	5.4	+4.5
テーマパークやレジャー施設	4.7	+0.9
ハイキング、登山、キャンプなど	3.6	▲2.6
海辺で保養、海水浴・水遊び	2.2	▲2.7

\*昨年は「家族や友人との親睦を深める」として調査、選択肢を変更しているため参考値

(図表 11)旅行日数

(単一回答、N=982)※海外除く

	%	前年比
1泊2日	35.7	▲6.2
2泊3日	33.1	+3.5
3泊4日	18.3	+3.0
4泊5日	4.1	▲2.1
5泊6日	3.8	+2.4
6泊7日	0.9	▲0.2
7泊8日	1.2	▲0.5
8泊以上	2.9	+0.1

(図表 12)旅行の同行者

(単一回答、N=1,030)

	%	前年比
家族づれ	60.8	▲1.0
夫婦のみ	24.5	▲1.1
子供づれ(中学生まで)	20.9	▲1.5
三世代	6.6	+0.8
それ以外(母娘など)	8.8	+0.8
家族と友人・知人	5.3	+1.5
友人・知人・パートナー*	14.1	+2.7
団体(職場など)	0.8	+0.3
ひとり	18.0	▲2.3
その他	1.1	▲1.1

\*昨年は「友人・知人」として調査、選択肢を変更しているため参考値

(図表 13)旅行先 (単一回答 N=1,030)

	%	前年比
北海道	10.1	+1.6
東北	8.3	▲2.1
関東	17.4	+0.1
甲信越	8.6	▲4.5
北陸	4.4	+0.5
東海	10.4	▲1.3
近畿	13.0	+0.6
中国・四国	8.8	▲0.9
九州	10.3	+1.3
沖縄	4.0	+1.3
海外*	4.7	+3.5

\*参考値:2019年調査では海外は10.5%

(図表 14)旅行先を選んだ理由(単一回答 N=1,030)

	%	前年比
行きたい場所があるので	29.1	▲1.5
帰省先なので	16.2	▲6.4
自家用車やレンタカーで行ける場所なので	11.9	-
友人・知人など会いたい人が住んでいるので	8.9	+2.3
泊りたい宿泊施設があるので	8.5	▲6.6
自然が多いなど、3密を回避しやすい地域なので	8.4	-
行ってみたいイベントがあるので	6.8	+4.6
その他	3.8	▲3.3
手頃な値段のツアーをみつけたので	1.9	▲1.4
その土地で今流行っているものを体験したいので	1.8	▲0.3
家族の赴任先なので	1.7	▲0.1
新型コロナウイルスの感染者数が少ない地域なので*	0.6	▲5.9
今年話題になっている場所なので	0.2	0.0

\*海外旅行の場合、外務省の感染症危険情報レベル1相当

(図表15)居住地別 夏休みの旅行先(地方別、単一回答 N=1,030)

(JTB)	夏休みの旅行先									
	北海道	東北	関東	甲信越 (山梨、長野、新潟)	北陸 (富山、石川、福井)	東海 (岐阜、静岡、愛知、三重)	近畿	中国 四国	九州 (沖縄含む)	海外
全体(1030)	10.1	8.3	17.4	8.6	4.4	10.4	13.0	8.8	14.3	4.7
居住地別										
北海道(47)	72.3	6.4	10.6	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	2.1	4.3
東北地方(41)	4.9	51.2	22.0	2.4	4.9	2.4	4.9	2.4	2.4	2.4
関東地方(444)	9.7	9.7	24.1	14.4	3.4	9.9	7.4	4.7	12.2	4.5
中部地方(173)	4.6	8.7	16.2	9.2	11.6	23.1	13.3	4.6	5.8	2.9
近畿地方(182)	6.6	1.6	9.3	3.8	3.8	8.8	29.7	14.8	16.5	4.9
中国・四国地方(69)	2.9	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	21.7	42.0	14.5	10.1
九州地方(74)	4.1	1.4	13.5	1.4	1.4	1.4	9.5	6.8	55.4	5.4

(図表16)回答者の居住地別 夏休みの旅行先の前年増減比(地方別、単一回答)

	北海道	東北	関東	甲信越 (山梨、長野、新潟)	北陸 (富山、石川、福井)	東海 (岐阜、静岡、愛知、三重)	近畿	中国 四国	九州 (沖縄含む)	海外
全体	1.6	-2.0	0.1	-4.5	0.5	-1.4	0.6	-0.9	2.5	3.5
居住地別										
北海道	-12.6	2.6	6.9	0.0	0.0	2.4	-1.9	-1.9	0.2	4.3
東北地方	4.9	-26.6	7.1	-1.3	4.9	0.6	4.9	2.4	2.4	0.6
関東地方	3.2	-1.7	-6.2	-4.2	0.3	-0.1	0.9	1.7	3.1	3.1
中部地方	1.8	4.6	3.5	-8.0	1.8	-11.4	2.9	1.8	0.0	2.9
近畿地方	3.4	0.0	4.5	-6.9	-1.5	1.8	-6.4	-4.0	5.2	3.9
中国・四国地方	-1.1	-4.0	-2.3	-2.7	0.0	3.0	7.1	-14.0	6.5	7.5
九州地方	2.4	-0.3	10.1	-0.3	1.4	-2.0	4.4	0.0	-19.2	3.7



(図表17)一人当たりの旅行費用

(単一回答 N=982)※海外旅行を除く

	%	前年比
1万円未満	9.2	▲ 6.2
1万円～2万円未満	20.6	▲ 5.8
2万円～3万円未満	18.3	▲ 0.5
3万円～4万円未満	9.2	+1.7
4万円～5万円未満	17.4	+3.4
5万円～7万円未満	7.9	+2.0
7万円～10万円未満	11.6	+3.5
10万円～15万円未満	3.1	+0.4
15万円～20万円未満	2.1	+1.5
20万円～30万円未満	0.5	+0.2
30万円～40万円未満	0.0	▲ 0.1
40万円以上	0.1	▲ 0.1

(図表18)利用交通機関

(複数回答 N=982)※海外旅行を除く

	%	前年比
自家用車・レンタカー	61.9	▲ 8.1
自家用車	51.2	▲ 11.6
レンタカー	10.7	+3.6
鉄道	43.5	+12.0
JR新幹線	23.2	+6.9
JR在来線・私鉄	20.3	+5.0
航空機	23.3	+9.0
従来の航空会社	17.8	+6.4
格安航空会社(LCC)	5.5	+2.6
バス	9.0	+5.3
高速バス・長距離バス	6.2	-
貸切バス	2.7	-
フェリー・船	1.9	+0.1

(図表19)利用宿泊施設

(複数回答、N=982)※海外旅行を除く

	%	前年比
旅館・ホテル・民宿・ペンションなど	92.8	+19.4
ホテル	63.2	+20.1
旅館	24.3	▲ 0.7
民宿・ペンション・公営施設・オーベルジュなど	5.2	▲ 0.1
その他宿泊施設	9.0	▲ 1.6
民泊・貸別荘	2.2	▲ 0.5
ホステル・ゲストハウス	1.2	-
キャンプ場・キャンピングカーなど	5.1	▲ 2.4
アウトドアに関する宿泊		
本来宿泊施設ではないユニークな施設(寺・図書館・城など)	0.4	+0.0
実家・親族の家	18.9	▲ 7.2
友人・知人の家	2.0	▲ 1.4
その他	1.2	▲ 0.8

## 6. 今年の夏休みで最も気になるところは「自然が楽しめる場所」だが、前年より減少 花火大会、テーマパーク、文化施設など、コロナ禍で行きづらかった場所の人气が回復

今年の夏休みに出かける場所として、気になっている場所は「自然の景色が楽しめる場所(国立公園や花畑など)(29.8%)」、次いで「自然の体験が楽しめる場所(登山やアウトドア、キャンプなど)(18.7%)」となりました。しかし、いずれも前年より減少しています。今年は、昨年まで感染症対策のため中止が続いていた「花火大会(17.4% 前年+4.6 ポイント)」、入場制限等が行われていた「動物園や水族館(16.2%)」や「美術館や博物館(12.7%)」、「東京ディズニーリゾート®(12.2%)」、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(8.6%)」などの施設やテーマパークが増加しました。また「特に行きたいところはない(7.7%)」は前年の 22.0%から 14.3 ポイント減少し、ここからも旅行意欲の高まりがうかがえます(図表 20)。

JTB の宿泊・国内企画商品の予約状況を見ると、感染状況が落ち着き旅行への期待感が高まり、前年比は 225%(7 月 5 日付)となりました。また、すべての地域で前年を超える伸びとなりました。特に北海道(前年比 315%)と沖縄(前年比 310%)は他の地域より高い伸びが見られます。またユニバーサル・スタジオ・ジャパンは 2021 年 3 月に新エリアがオープンし、この夏は全国から高い人気となっています。JTB でもエリア入場確約券付商品を販売していますが申し込みは好調です。

(図表20)今年の夏休みに出かける場所として気になっているところ (複数回答 N=1,030)

	%	前年比
自然が楽しめる場所(国立公園や花畑など、景色を楽しむ)	29.8	▲ 0.3
自然が楽しめる場所(登山やアウトドア、キャンプなど体験を楽しむ)	18.7	▲ 9.3
花火大会	17.4	+4.6
動物園や水族館	16.2	+3.4
美術館や博物館	12.7	+2.7
東京ディズニーリゾート®	12.2	+4.3
あえて事前には決めず、現地に行ってから決める	11.7	-
ドライブを楽しむこと自体をメインとした場所(街道などの景色を楽しむ旅、車中泊で周る旅など)	11.3	-
温泉	10.8	+1.5
観劇全般、ライブ、コンサートなど	10.6	-
ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	8.6	+2.1
特に行きたいところはない	7.7	▲ 14.3
スポーツイベント、スポーツ観戦	7.5	-

## 7. 期間中の海外旅行人数は 50 万人(対前年 555.6%、対 2019 年比 17.0%)を予測 再開に伴い関心は高いものの、水際対策や入国者数制限に伴う出入国手続き、入国規制が現在の大きな壁に

2020 年 3 月以降、ビジネスなど一部を除き、海外との往来が制限された期間が 2 年以上続いています。しかしながら、世界ではワクチン接種率が進み、経済の正常化に向けた動きに合わせて水際対策を緩和する動きが広がっています。日本では、今年の春の大型連休に日本人のハワイなどの海外パッケージツアーが一部再開し、販売されました。現在は、緩和されたとはいえ水際対策は続き、特に日本周辺の中国、台湾、香港への入国は依然厳しい制限がとられています。また、日本に帰国する時に、すべての旅行者は出国 72 時間前に新型コロナウイルスの検査を受け、医療機関等により発行された陰性の検査証明書を入国時に検疫所へ提示しなければな

らず、滞在先での手続きが必要です。一方、新型コロナ以外の海外旅行の環境も厳しく、為替相場は円安が進み対米ドルでは大幅な下落となり、滞在費に大きな影響が出ています(図表 21)。またウクライナ情勢による原油高で燃油サーチャージが高騰し、航空券代金にも影響が出ています(図表 22)。このほか、航空路線の回復もアジアを中心に遅れており、座席数が限られています。現地の資源価格の高騰と人出不足、物流の停滞等による物価上昇も影響を及ぼしています。

以上の理由から、夏休み期間の海外旅行人数は、50 万人程度と推計します。対前年が 55.6%、対 2019 年では 17.0%になります。

前述のアンケート(図表 13)では、この夏の旅行先のうち海外を考えている人は 4.7%、前年より 3.5 ポイント上昇しています。参考値になりますが、2019 年は 10.5%でした。

今後の海外旅行の実施時期について、事前調査で意向を聞いたところ、行先別の実施時期については、「すぐに行きたい」という回答は「ハワイ(9.8%)」が最も多く、次いで「オーストラリア・ニュージーランド(8.3%)」「ヨーロッパ(8.1%)」で、新型コロナ関連の規制緩和が先行している欧米豪諸国が上位となりました。東アジアについては、上から「韓国(5.7%)」、「台湾(5.5%)」となりました(図表 23)。

海外旅行の実施時期についての考え方については、最も高かったのが、「円安や物価が上がっているので、今年度は旅行したくない(18.8%)」、続いて「国際情勢や感染症がまだ不安なので、今年度は旅行したくない(17.0%)」となり、消極的な意見が上位となりました(図表 24)。

JTB の海外企画商品の人気方面は、1 位ハワイ、2 位シンガポール、3 位グアムとなっています。

(図表 21)各年 6 月末の日本円に対する為替レート

	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
米ドル	137.7	111.6	108.7	108.79	111.54	113.00	103.9	124
ユーロ	144.2	133.1	122.6	124	129.4	129.5	115.9	136.99
英ポンド	169.7	157.2	136.5	140.6	148.6	149.8	142.4	197.03
100韓国ウォン	10.72	9.98	9.2	9.53	10.08	10.01	9.16	11.14
中国元	20.68	17.41	15.53	15.99	16.96	16.79	15.76	20.09

出典:東京外国為替相場/T.T.Selling(三菱東京リサーチ&コンサルティング「外国為替相場情報」より)

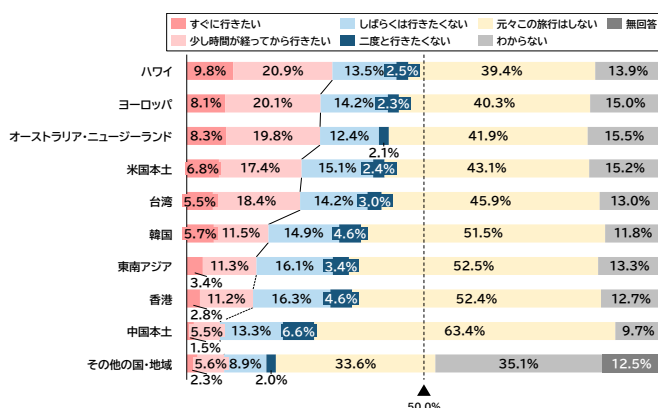
(図表 22)8 月発券の燃油サーチャージ額の推移(日本航空の場合/日本発着/片道/単位:円)

	2022年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年
韓国	5,900	1,000	1,000	400	0	500	2,500	2,000	2,200
中国	11,400	3,500	3,500	1,000	0	2,500	7,000	5,500	6,000
香港	11,400	3,500	3,500	1,000	0	2,500	7,000	5,500	6,000
台湾	11,400	3,500	3,500	1,000	0	2,500	7,000	5,500	6,000
グアム・サイパン	17,800	4,000	4,000	2,000	0	3,000	8,000	6,500	7,000
タイ・シンガポール・マレーシア	24,700	6,500	6,500	3,000	0	4,500	13,000	10,500	11,500
ハワイ・インドネシア	30,500	8,500	8,500	4,000	0	6,000	16,000	13,500	15,000
米国・欧州・中東・オセアニア	47,000	14,000	14,000	7,000	0	10,500	25,000	21,000	23,500

出典:日本航空プレスリリース「国際線 燃油特別付加運賃のご案内より(2022年6月24日更新)」

(図表 23)行先別、今後の海外旅行の実施時期について

(単一回答 N=10,000)



(図表 24) 夏休み以降の海外旅行

について(複数回答 N=10,000)

	%
円安や物価が上がっているので、今年度は海外旅行はしたくない	18.8
国際情勢や感染症がまだ不安なので、今年度は海外旅行はしたくない	17.0
国際情勢や感染症などの影響の少ない地域であれば、今年度中に海外旅行をしたい	4.3
国際情勢や感染症、円安や物価高に関わらず、とにかく今年度中に海外旅行をしたい	4.0
次年度以降、円安や物価高がさらに進んだり、物価が上がったりする可能性があるため、今年度中に海外旅行をしたい	1.7



(図表 25)「夏休みの旅行動向」推計数値の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行	(億円)
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2000	7,423	7,159	264	35,832	206,065	31,094
2001	7,562	7,296	266	35,115	210,149	31,210
	1.9%	1.9%	0.8%	▲ 2.0%	2.0%	0.4%
2002	7,612	7,369	243	33,654	213,091	29,978
	0.7%	1.0%	▲ 8.6%	▲ 4.2%	1.4%	▲ 3.9%
2003	7,535	7,347	188	33,923	222,893	29,113
	▲ 1.0%	▲ 0.3%	▲ 22.6%	0.8%	4.6%	▲ 2.9%
2004	7,490	7,242	248	34,975	208,851	30,509
	▲ 0.6%	▲ 1.4%	31.9%	3.1%	▲ 6.3%	4.8%
2005	7,604	7,365	239	35,300	214,600	31,128
	1.5%	1.7%	▲ 3.6%	0.9%	2.8%	2.0%
2006	7,657	7,410	247	35,716	223,100	31,977
	0.7%	0.6%	3.3%	1.2%	4.0%	2.7%
2007	7,662	7,420	242	36,200	232,000	32,474
	0.1%	0.1%	▲ 2.0%	1.4%	4.0%	1.6%
2008	7,572	7,348	224	35,800	249,000	31,884
	▲ 1.2%	▲ 1.0%	▲ 7.4%	▲ 1.1%	7.3%	▲ 1.8%
2009	7,353	7,128	225	34,300	212,300	29,225
	▲ 2.9%	▲ 3.0%	0.4%	▲ 4.2%	▲ 14.7%	▲ 8.3%
2010	7,669	7,427	242	35,500	222,100	31,741
	4.3%	4.2%	7.6%	3.5%	4.6%	8.6%
2011	7,524	7,264	260	33,260	227,300	30,070
	▲ 1.9%	▲ 2.2%	7.4%	▲ 6.3%	2.3%	▲ 5.3%
2012	7,736	7,460	276	33,730	231,400	31,546
	2.8%	2.7%	6.2%	1.4%	1.8%	4.9%
2013	7,887	7,624	263	35,010	240,420	33,015
	2.0%	2.2%	▲ 4.7%	3.8%	3.9%	4.7%
2014	7,805	7,545	260	34,850	249,800	32,789
	▲ 1.0%	▲ 1.0%	▲ 1.1%	▲ 0.5%	3.9%	▲ 0.7%
2015	7,803	7,561	242	34,700	251,500	32,317
	▲ 0.0%	0.2%	▲ 6.9%	▲ 0.4%	0.7%	▲ 1.4%
2016	7,674	7,410	264	33,700	216,300	30,681
	▲ 1.7%	▲ 2.0%	9.1%	▲ 2.9%	▲ 14.0%	▲ 5.1%
2017	7,732	7,460	272	34,400	216,000	31,511
	0.7%	0.7%	3.0%	2.1%	▲ 0.1%	1.0%
2018	7,742	7,453	289	34,800	214,500	32,134
	0.1%	▲ 0.1%	6.3%	1.2%	▲ 0.7%	2.0%
2019	7,540	7,240	294	36,500	232,000	33,386
	▲ 2.6%	▲ 2.9%	1.7%	4.9%	8.2%	3.9%
2020	3,805	3,800	5	32,000	170,000	12,239
	▲ 49.5%	▲ 47.5%	▲ 98.3%	▲ 12.3%	▲ 26.7%	▲ 63.3%
2021 (期間変更)	4,009	4,000	9	33,000	-	13,200
	5.4%	5.3%	80.0%	3.1%	-	7.9%
2022	7,050	7,000	50	35,500	-	24,850
	75.9%	75.0%	455.6%	7.6%	-	88.3%

\*対象期間は2000年より、7月15日～8月31日（ただし2021年のみ、7月20日～8月31日）

\*調査開始は1969年。海外旅行人数は実績値。

\*平均費用については、1993年より推計。2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

\*国内旅行人数は推計値で、2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

\*2019年より市場調査をインターネットアンケート調査に変更。